

共に歩む

小学校高学年の頃から第2次性徴を迎え、急激な体の変化と共に自分が何者であるか、悩み始める子供たち。自分の変化に自分自身がついていけなくなることもあり、この頃、自己肯定感も下がるとも言われています。そのような心と体のアンバランスな状態が続く中、どのように行動しているのか分からなくなり、周囲に対して反抗的な態度を示す反抗期も同じ頃迎えることとなります。そういった時期を私たちは「自分探しの旅」と称してきました。

思えば、私自身も自分が何者であるのか、自分に何ができるのか、自分にはどのようなところがあるのか全く分からないまま、あてもない旅を続けてきました。年を重ねた今でも自分自身が何者であるか分からず、迷うことばかりではあります。ただ、あの頃と違うこともあります。それは、夢をもてるようになったこと、目標を掲げることができるようになったことです。学校経営という立場を経験して、我が校の子供たちには、こうなってほしい、こうあってほしいという目標を声に出して示せるようになりました。

学校経営に携わる間、我が校での教育を通して育成したい資質・能力として掲げたのが「未来（夢）を描く力の育成」です。そして、その具体的な指導内容として、何者にもなり得るだけの基礎学力を定着させること、どんな困難にも立ち向かって踏み出していける自信、諦めない心を育むことの2点を推進しました。もちろん、子供たちの中には様々な背景を抱える家庭もあることにも注意しました。全員が同じような状況に到達することが目標ではなく、一人一人に寄り添いながら丁寧に関わりを続けることを基本としました。

「未来を描く力」として、知識・技能という測定しやすい学力と共に、学びに向かう力、人間性等といった見えにくい学力の育成を掲げました。そのことに対して、職員から「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善はもちろんのこと、個に応じた指導を徹底すること、褒める指導を繰り返すこと、チームで指導に当たり、適切な指導とフォローを繰り返すこと、様々な体験活動を経験させていくことなど各教科等の特質を生かした具体的な取組を提案してもらいました。人が新たなことに挑戦したり、困難なことに挑戦し続けたりするためには、様々な学習経験が必要です。学校が、家庭や地域での学びと学校での学びを有機的に結び付けること、そしてそのことを契機に、子供たちが豊かな未来社会へと羽ばたいてくれることを願っています。一朝一夕には結実しないことではありますが、子供たちの未来を共に描いていける教職員であり続けたい、学校であり続けたいと私は考えます。



大隅教育事務所 指導課長 富田 好昭

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査の結果が以下のように公表されました。

	小学6年		中学3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国(公立)	67.2%	62.5%	69.8%	51.0%	45.6%
鹿児島県	67%	61%	70%	48%	42%
比較(全国と県)	ほぼ同じ	-1.5%	ほぼ同じ	-3%	-3.6%

国立教育政策研究所による報告書や授業アイデア例を基に、児童生徒の実態に応じた補充指導や授業改善につなげましょう。



大隅地区は、小学校及び中学校の全教科で県平均を3～6%下回る大変厳しい状況が続いています。結果の共有だけでは、調査のための調査で終わります。「どうして間違えたのか」「問題を解けるようになるにはどのような授業をすればよいのか」などを考えることが大切です。できるようになるまで補充指導を行い、児童生徒の学力の向上を図りましょう。

児童生徒質問紙	自分には、よいところがあると おもいますか	
	小学校	中学校
全国(公立)	42.6%	37.2%
鹿児島県	35.5%	30.9%
大隅地区	32.9%	32.0%

※ 表の数値は、「1 当てはまる」と答えた割合

児童生徒質問紙から全国よりも自己肯定感が低い状況にあることが分かります。「学習者主体の授業」を展開し、児童生徒が自己の学びを調整しながら粘り強く問題を解決していく学びの姿を教師が価値付け、自己肯定感の向上につなげていきましょう。

<報告書QRコード>



授業を通して得た達成感や成成感、児童生徒の確かな自信につながります。課題に対して、児童生徒自身が悩み、考え、汗を流すような「学習者主体の授業」を通して、学びに向かう力、人間性等の目に見えにくい学力を高め、児童生徒の未来への道を拓いていきましょう。

## 地区フレッシュ研修 ～他校種参観Ⅰ～

6月22日(木)、県立鹿屋特別支援学校を会場に実施しました。校長先生やコーディネーターの先生の講話、施設参観、グループ協議などを通して、児童生徒の教育的ニーズに対応した適切な指導及び必要な支援の具体や校種間連携の重要性などを理解するよい機会となりました。



子どもの頑張りを認める、できていること、できたことを認めるということは、改めて大切にしていきたいと感じました。子どもの数だけ支援の方法があると学びました。目の前にいる子どもたちのことを大切にできる教師でありたいです。(小)

本日の研修を通して、特別支援教育は全ての児童生徒に必要な視点であると改めて気付いた。できているところに目を向けることを学校に帰ってから早速、実践していきたい。また、困ったこと等あれば、一人で抱え込まず、相談していきたい。(中)

特別支援学校の実態と先生方のきめ細やかな指導を実際に肌で感じることができ、また、新たな指導観、教育観を自分の中に取り入れることができた。寄り添う指導を常にもち、プラスの言葉かけをしながら、生徒の成長につなげていきたいと思います。(高)

初任者の皆さんの感想や研修の姿などから、「学び続ける教師」の姿を頼もしく感じるとともに、今後も初任者の皆さんを全校体制で支えていただきたいと考えました。初任者の皆さんののはつらつとした姿から、初任校での活躍を思い浮かべました。

### 地区人権教育授業実践研修会 東串良町立池之原小学校

6月7日(水)に、地区人権教育授業実践研修会が池之原小学校で開催され、大隅地区の小・中・高等学校、地区内教育委員会から26人が参加しました。

午前中の研修Ⅰでは、「自他の大切さを認めることができる子どもを育成するために」、研修Ⅱでは、「大隅地区の人権教育の推進・充実のために」というテーマで講義及び演習を行いました。

午後は、6年い組の社会科の授業で、差別問題がどのようにして起こり、解決に向けて、どのような取組がなされてきたのかについて考えました。歴史を学ぶ意味を考え、自分たちの生活や生き方につなげてほしいです。

<学習指導案>



### 県研究協力校研究公開(教育の情報化) 垂水市立垂水中央中学校

7月7日(金)に、県教育委員会指定「学校における教育の情報化」研究協力校の研究公開が行われました。垂水中央中学校は、研究主題を「主体的に学び、考えを深め合う生徒の育成～ICTを活用した指導法の工夫を通して～」と設定し、2年間実践的な研究に取り組んでこられました。授業改善、生徒指導及び生徒会活動の充実、業務改善の3つの視点で、日々の研究実践を一つ一つ積み重ねました。

生徒がICTを積極的に活用する授業が大変参考となり、また、研究公開に向けて職員が一丸となった取組が印象的でした。

<詳しく知りたいときは…>



### 大隅地区研究協力校研究公開(道徳) (兼)大隅地区小学校道徳教育研修会 錦江町立大根占小学校



6月27日(火)に大根占小学校で、研究主題を「自己の生き方について考えを深める道徳科授業の在り方～児童が主体的に考え、議論する授業づくり～」と設定した研究公開が開催されました。当日は、2年・4年・6年の授業を公開し、発問マトリクスやICTの活用、振り返りの充実等、多くの実践を示してくださいました。どの分科会の授業研究でも多くの先生方の熱心な姿が見られました。

<研究公開報告>



大隅地区では、道徳科の授業がとても充実してきています。子供たちに関わる多くの方々が授業参観できるよう機会を増やしていきましょう。

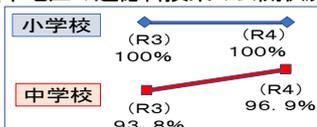
「特別の・教科領域の道徳」の授業を相互参観しよう!

### 大隅地区中学校道徳教育研修会 鹿屋市立花岡中学校

7月4日(火)に花岡中学校で、「『考徳科の授業づくり～自分の思いや考えをもとに他者と対話する活動を目指して～』という研究主題を掲げた研究公開が開催されました。花岡中は、「多面的・多角的に考える指導の工夫」や「振り返りによる生徒の学びの自覚化」の視点でローテーション道徳にも取り組んでおり、当日の公開授業はとても提案性のある素晴らしいものでした。

<実践事例>

【本地区の道徳科授業の公開状況】



# オープンサポート教科フォーラム

8月18日(金)に鹿屋市文化会館、鹿屋市中央公民館で「オープンサポート教科フォーラム」を開催しました。123人の参加があり、全体会や教科別研究会で「学習者主体の授業」を中心にした授業改善について研修を深めました。

## 全体会(パネルディスカッション)

「大隅学力向上リーフレットを活用した『学習者主体の授業』」をテーマに、5人のパネリストの実践発表を踏まえた討論が行われました。最後に鹿児島大学の原田准教授の講話をいただき、「学習者主体の授業」について学びを深めることができました。



- ・子供の頭の中が「ぐるぐる働きっぱなし」の授業
- ・子供に選択、判断、決定実行させる場面づくり
- ・思考ツールの効果的な活用、振り返りの設定
- ・子供による時間管理

## 教科別研究会

「おおすみ学力向上プロジェクト会議」の推進委員が取り組んでいる「学習者主体のモデル授業づくり」について紹介・意見交換が行われました。参加者から建設的な提案もあり、熱心に語り合いました。



### フォーラム参加者の感想から

- ・振り返りが、「思考を整理する」「自分の学びを調整する」「学習効果を高める」「次時の学習に生かす」ことにつながると感じた。
- ・これまでの実践で悩んでいたことに少し答えが見えた気がする。2学期からの実践が楽しみだ。

## 地区臨時的任用教員等研修会

8月25日(金)に肝付町文化センターで開催し、地区内の臨時的任用教員の先生方25人が参加しました。

全体会(指導講話)を行った後、分科会(小学校部会・中学校部会・特別支援教育部会)に分かれ、本課指導主事による模擬授業を交えた授業づくりや実際に2学期に授業を行う単元の板書計画作成など基本的な授業づくりについて学びました。



研修後は、「2学期の授業が楽しみです。」「もっと研修で学びたい。」など、とても前向きな感想が多く聞かれました。今後の先生方の更なる活躍がとも楽しみです。

## 地区教育活動実践記録への積極的な取組を!

日々の教育実践で取り組んだ継続的・累積的な課題解決の過程を教育活動実践記録として、毎年多くの先生方が応募してくださっています。

近年の応募数は、令和3年度は864点、令和4年度は802点(前年度62点減)で、応募率は右表のとおりです。

	R4	R3
全体	42.7%	45.1%
小学校	46.5%	50.4%
中学校	35.2%	34.8%

実践記録に取り組むことで、省察の機会を複数回経ることができ、自身の教育実践について客観的・多面的に深く考えることができます。そのことで、実践中に捉えられなかった児童生徒の姿に気付いたり、見えなかった課題や新たな改善のアイデアが見つかったりすることもあります。このことは、必ず先生方の指導力、資質の向上につながります。多くの応募をお待ちしています。

〈令和4年度の掲載作品〉



## 不登校児童生徒を増やさないためにできること

★ 長い間スクールカウンセラーとして、大隅地区で子供たちの悩みを聞き、本人たちの心のうちを言葉にしてきた倉ヶ崎先生に、次のようなアドバイスをいただきました。

### ○ 子供たちはどんなことで悩みを抱えているか?

「学校は必要ない」と感じている子が多い。学校に行かなくても困らないと思っている。学校は、今まで当たり前前だったものをもう一度見直し、**学校の魅力を問い直してほしい**。また、家庭であまり認めらず、孤立している子供たちもいる。一人一人の困り感を捉え、保護者のためにも、個別の面談、個別の対応をしつつ、保護者の気持ちに寄り添い、**保護者と共に行動**していくことが大切。

### ○ 困っている子供たちを孤立化させないためには?

保護者の協力は不可欠。また、学校と保護者だけで話し合いをするのではなく、「**チーム学校**」を意識して、**関係機関がつながる**ことで保護者の想いを余すことなく、くみ取ることができると思う。保護者に、「子供を学校に登校させよう」と押し切る力を付けさせるため、学校は、保護者の話を聞き、信頼を築き、保護者の力を回復させる。**保護者に相談窓口を周知**することも一つの方法である。

## 学校に意識してほしいこと

- 魅力ある学校づくり
- 子供を思い、保護者と共に行動
- 関係機関の把握と日常からの連携
- 相談窓口の積極的な周知

